

2019YOSAKOIソーラン祭り参加者フォーラムin函館 開催報告書

【開催結果】

日程：2019年10月5日（土）～10月6日（日）

【1日目（10/5）】 13:00～13:20 開会式
13:20～13:50 全体会 本祭開催結果報告
13:50～14:50 全体会 組織委員会に聞く
15:20～17:00 グループディスカッション
18:30～20:15 交流会
20:45～22:45 交流会二次会
【2日目（10/6）】 9:30～10:30 総括・閉会式

会場：函館湯の川温泉 湯元 啄木亭

主催：一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

主管：一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 南北海道支部

参加者：85団体 251名（スタッフ含む）

【開催テーマ】「共創～聞く知る語る」

2003年、参加者614人・264チームを函館湯の川にお迎えして16年が経ちました。昨年フォーラムが20回の節目を迎え、参加者の減少がある中、変化をしつつ続けてきたこのお祭り。昨年のテーマ「継続」から続く多様な立場の人たちと対話をしながら新しい価値を共に創り上げることで、今後のお祭りに反映したいと考えます。

21回目の開催となる今年の参加者フォーラムは、南北海道支部支部の主管で1泊2日の形式で開催しました。昨年のフォーラムアンケートの回答で多かった「参加者が議論する場所がもっとほしい」「いろいろなチームと意見交換がしたい」「組織委員会に直接質問したり意見を言える場所が来年もほしい」という声に応え、参加者全員が聞き・知り・語る時間とし、2日間にわたり、活発な意見交換・交流が行われました。



開会式

- 開会宣言
・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会南北海道支部
支部長 船山晶子
- 挨拶
・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会
会長 星野尚夫



全体会議

- 「第28YOSAKOIソーラン祭り 開催結果報告・参加チームアンケート報告」
- 「組織委員会に聞く」

YOSAKOIソーラン祭り組織委員会より、今年6月に開催した第28回YOSAKOIソーラン祭りの開催結果と、参加チームから寄せられたアンケート回答の集計結果について報告。

開催報告では、祭りの全体のピックス(令和記念新曲「祭りだ！和っしょい」や「北海道万祭-HOKKAIDO BANZAI」の開催)のほか、札幌市内小学生の棧敷席招待やインフォメーションセンターの設置など、期間中にはチームがなかなか触れないコンテンツも紹介。また、インターネット放送の結果や公式サイトへのアクセスなど、開催にまつわる数字についても伝えました。

開催結果報告・アンケート報告に続いて行われた「組織委員会に聞く」の時間では、事前に寄せられた参加者の皆さんからの質問に回答する前に、「YOSAKOIソーラン祭り ファクトフルネス」と題して様々なデータから祭りの現状・課題について分析。祭りの変遷や収支のほか、学生実行委員会の活動紹介など、この2日間のフォーラムで、祭りについて考えるための材料を提示しました。(※詳細はレポートの後半に記載)



グループディスカッション

- グループディスカッション 「祭りを盛り上げるための工夫」

- テーマ① 自分たちが盛り上がる魅力的な祭りにするために
- テーマ② 自分たちが盛り上げる魅力的な祭りにするために
- テーマ③ 祭りの改善点

このフォーラムのメインコンテンツとなるグループディスカッションでは、3つのテーマを設け、9つのグループでディスカッションを行いました(各テーマ3グループ)。

「祭りを盛り上げるための工夫」を大テーマに、「どうすればチームがもっと楽しんで参加できるのか」「祭り自体を盛り上げるためには」「お客さんに楽しんでもらうには」など、多くの意見が交わされました。

※各ディスカッションの報告はレポートの後半に記載



懇親会 / 総括・閉会式

懇親会

1日目のラストは大懇親会を開催！地元・函館の賞品があたる大抽選会や、支部長たちによる余興で盛り上がり、大いに交流する機会となりました。

また、二次会にもほとんどの参加者が出席し、それぞれの祭り・チームへの想いを語り合いました。

総括・閉会式

○ グループディスカッション報告

- ・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 南北海道支部
小川公子 / 岡本美貴夫 / 民谷有華 / 佐々木未来

○ 総括・第29回YOSAKOIソーラン祭りについて

- ・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 部長 伊藤耕作

○ 最後に・メッセージ

- ・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 理事・副会長 梶浦宣明

○ 閉会挨拶

- ・一般社団法人YOSAKOIソーラン祭り組織委員会 南北海道支部 副支部長 成田秀樹

2日間のフォーラムの最後には、YOSAKOIソーラン祭り組織委員会から来年・2020年の第29回YOSAKOIソーラン祭りについての方針、そしてさらに再来年迎える第30回に向けて事務局が考えていることを伝えました。

◆第29回YOSAKOIソーラン祭り 開催概要(予定)

[日程]2020年6月10日(水)～14日(日)

[主催]札幌市・札幌観光協会・札幌商工会議所・YOSAKOIソーラン祭り組織委員会

[主管]YOSAKOIソーラン祭り実行委員会

[会場]大通公園をはじめとする札幌市内約20会場

[参加チーム数]約280チーム [参加者数]約28,000人 [観客動員数]約200万人

2019年 11月 各地域にて説明会 / 12月1日 10:00 参加エントリー開始

2020年 2月29日 エントリー締切 / 4月4日 全国交流会・5日 参加者ガイダンス / 6月10日～14日 本祭

第29回に向けては、市内中心部での新規会場の設置や、北海道内の中学校体育への授業プログラムの提供などを検討しています。

◆30周年記念事業について

各支部を通して企画案を募集した30周年記念事業については、以下のような案が寄せられました。

[本祭期間中] 解散したチームの復活演舞 / 30周年ならではの賞の設定 / 全員参加の総踊り・記念総踊り / オール北海道の旗士での演舞 など

[本祭以外の期間] フォトコンテスト / YOSAKOIソーランなんでも番付 / タイムカプセル / 30周年PRキャラバン隊の結成 など

◆30周年を見据え 未来に向けて

[事務局方針]

収益事業の強化・コンテンツ収益強化 / 未来に向け祭りアーカイブの制作 / 祭りが新しい価値を創造し続けること

“参加者の皆さんと創る祭り”

チームそれぞれ、参加する個人各々が感じる価値を発信し、自分たちの周囲の人たちを巻き込んでいこう。

2019YOSAKOIソーラン祭り参加者フォーラムin函館 レポート

全体会議 「組織委員会に聞く」

事前に寄せられた参加者の皆さんからの質問に回答する前に、「YOSAKOIソーラン祭り ファクトフルネス」と題して様々なデータから祭りの現状・課題について分析。この2日間のフォーラムで、祭りについて考えるための材料を提示しました。

◆YOSAKOIソーラン祭りの変遷

- 第1回(1992年)～第28回(2019年)までの参加チーム数の推移
 - ・第5回頃からチーム数の急激な増加 第8回(1999年)には300チーム超え ピークは第10回の408チーム
 - ・その後、チームの人数規制ルール設定などから300チーム前後で推移・減少
 - ・第20回(2011年)頃からは270～280チーム程度でほぼ横ばい
 - テレビ放送
 - ・第2回からSTVが放送
 - ・在札各局が揃って放送し始めたのはすでに300チームを超えていた第9回頃から
- ⇒普及振興の課題を考える際、「以前よりテレビ放送が少なくなった」「放送が増えればチームも増える」という声があるが・・
- × たくさん放送してくれたら普及振興になった
 - たくさんチームが増えたから放送してくれるようになった ではないだろうか。
- ⇒ではなぜ、第1回目から7, 8回目までの参加者は、
テレビ放送がたくさんあるわけでもないのに、コンテストも今ほどレベルが高くないのに、参加したのか。
⇒これを考えることが、祭りの普及振興のヒントになるのではないだろうか。

◆YOSAKOIソーラン祭りの組織

- ・現在、YOSAKOIソーラン祭りは、北海道知事や札幌市長を顧問に迎え、道内を代表する企業・団体が理事として参加し組織されている。
 - ・その中で第1回から祭りの運営を行う学生実行委員会の活動について紹介。
- 《学生実行委員会の活動について》
- ・現在、年間を通して活動しているメンバーは約40名。様々な大学の学生で構成されている。
 - ・団体理念 YOSAKOIソーラン祭りを通して地域社会に貢献する。
- 本祭事業と年間活動の2つの軸
 - ・団体を束ねる「リーダー部」のもと、本祭事業は「パレード班」「西8丁目班」「総務班」「審査班」「ワドリ班」で活動
 - ・そのほか、協賛金集めを束ねる「協賛事務局」、知見を広げるための講演会を開く「講演会事務局」も活動
 - ・10月から普及振興活動や企画会議をはじめ、11月から協賛活動・ボランティア活動、3月からは新入生歓迎活動を行い、6月の本祭を迎える。7, 8月は反省や次年度への引継ぎを行う。
 - ・道内外の祭りの運営に参加するほか、ミュンヘンクリスマス市や雪まつりへのボランティア参加も実施。
 - ・年間活動では、小学校などへの普及振興活動を行っている。

◆YOSAKOIソーラン祭りの収支

- YOSAKOIソーラン祭りの年間 収入・支出について分類・割合を紹介
- 課題
 - ・収入が企業からの協賛金収入に偏っている
 - ・広く多くの方から応援してもらえる体制づくり
 - ・大企業からの協賛金だけに頼らない収入(例: 10,000円×10,000人=1億円)
 - ・地域会場の存続について 以前30前後あった会場数は19会場に
⇒各会場は自主運営で、開催費用をそれぞれで賅っている

◆YOSAKOIソーラン祭りのひろがり

“本当にYOSAKOIソーランは衰退しているのか？”

- 例えば、全道の小学校の内、1学年だけでもYOSAKOIソーランを実施しているとしたら
⇒全道の小学生数 239,792人×1/6=約40,000人
⇒× YOSAKOIソーランが衰退

○ 時代とともにYOSAKOIソーランの価値の変化

絆・減災・コミュニティの再構築・地域文化の保存・交流手段・出会い・北海道を代表するパフォーマンス など

2019YOSAKOIソーラン祭り参加者フォーラムin函館 レポート

全体会議 「組織委員会に聞く」

質疑応答

- ◆苦情が来ない練習場所の確保について対応できないか
⇒本祭当日の荷物預かりや休憩スペースの問題などと同様、適当な場所がないのが現状。チームにおいても、当日は練習せず祭りを楽しむなど、ぜひ発想の転換をしてほしい。
- ◆ファイナルパレードの反対側はお祭りパレードでなくてもいいのではないか
⇒祭りとしてコンテストも、審査に関係なく楽しむ「お祭りパレード」のような企画も大切にしていきたいと考えている。
- ◆未成年飲酒案件に対する対応について、過去の対応と比べても厳しいのではないか
⇒チームの新生入生歓迎で行われたということ、祭り全体への影響を鑑み厳しく対応している。祭り全体のマナー・モラルが向上し、周囲からもそれが認められるようになれば、今後対応も変化していくだろう。
- ◆審査基準と審査結果をもっと明確にするべき
⇒今の審査方法にする前は、コンテストが注目を集め、一般市民からの審査結果などへのクレームも非常に多かった。より市民感覚に近い審査に、ということで現在の方式にしたが、審査基準・結果は明確であると考えている。
- ◆鳴子は一瞬だけ持てばいいのか
⇒よいか、ダメかと聞かれれば、よいのではないか。ただし、ソーラン節と鳴子がYOSAKOIソーランのルール。鳴子を“なるべく持たないように”作品を考えるよりも、いかにそれを活かした演舞にするか考える方がよいのでは。
- ◆地方チームの課題について。資金力・人員にも限りがある。どうしたらより多くの人に興味をもってチームに入ってくれるようになるか。
⇒事務局も答えを持っているわけではない。こういったフォーラムの場で、多くのチームと議論し、考えていきたい。
- ◆参加チームアンケートの回答チーム数が少ないが、アンケートが複雑。もっと簡単にしてはどうか。
⇒チームが回答しやすいものを考えます。
- ◆前の質問で審査基準・結果は明確だと説明していたが、組織委員会としては現状の審査に満足しているということか。
⇒ベストの方法かという改善の余地はあるかもしれないが、これまでの流れの中でベターなものになっていると考える。方針としては間違っていないと考えている。
- ◆審査について多くの意見が出ている以上、チームはそう思っていないのではないか。審査について議論する場がほしい。
⇒議論の場については支部長会議で検討する。審査については、テレビで取り上げられ盛り上がってきた。多くの人が参加できる祭り、コンテストのバランスは考えていかなければならない。チームの意見を取り入れながら、審査員も公募の市民審査員だけでなく、推薦審査員を設けたり、全国の祭り関係者を入れたりしている。
- ◆以前あったエナジードリンクの配布はよかった。今いるスポンサーにも飲料メーカーがいるが、そういったものの提供をしてもらえないのか。
⇒ご意見として承る。
- ◆審査結果発表が日曜日にあるが、チーム代表からメンバーに結果を伝える前に、周囲の観客などから「おめでとう」や「頑張ってるね」などの声がかかり、結果が知れてしまう。喜ぶに喜べない。発表のタイミングを工夫できないのか。
⇒審査結果発表は、過去の経緯の中で、一斉に公式HPで発表することにした。以前は、結果を間違えてチームに電話するなどがあった。チーム代表者に一番に電話がいくことと、結果を正確に発表することを並べたときに、間違いがないことを優先した。
- ◆U-40大会の二次審査会場(カナモトホール)は大旗を振ることができないが、大旗も含めてチームの演出・メンバーとしてやってきているので残念。改善してほしい。
⇒どこで開催するのが適切か検討し、次回の支部長会議で議論したい。

【テーマ①】自分たちが盛り上がる魅力的な祭りをするために

【内容】

参加者の立場から、観客動員増の工夫（栈敷の客・他会場・ワオドリ）や栈敷の使い方（どのように客を埋めるか）、祭りを楽しめる演舞スケジュールやイベントなど、参加者が「盛り上がる」祭りの魅力づくりについて議論しました。

グループごとに行った議論について、主な内容の一部を紹介します。

【栈敷席について】

- 小学生の招待は、渡し方にもっと工夫を（チームが演舞を披露する、親の分もあるなど）
- チケット売り場がわかるような工夫を。例えばチケットを入口で販売したり、案内役をチームが行うことでモチベーションにもつながるのではないかな。
- 丁目によって値段を変えるなどしてはどうか
- YOSAKOIが好きな人ほどチームを追いかけたいため購入しないのではないかな。
- 歩行席(栈敷の前に歩く席をつくる)
- チケットではなく、入口に500円を入れる箱を用意・キャッシュレス対応をしてはどうか。
- 人の少ない時間帯は、特典をつけたり、チームの公開練習にして栈敷席に他チームを入れてはどうか。

【ワオドリスクエア・総踊り】

- チームスケジュールのなかでは参加しづらい。最初から抽選に組み込んではどうかな。
- 曲や振り付けが分かりやすくなるような工夫を（電光掲示板、アプリなど）
- すぐに踊れるような簡単な総踊り曲がほしい。
- 総踊りを定着させる、代表的なものがほしい
- 総踊りの機会がもっと欲しい(各演舞の間や、祭り最終日など)

【会場・スケジュール】

- 移動が大変、スケジュールに余裕がほしい。ふーどパークや前後のチームの踊りも楽しみたい。
- お客さんがもっと気軽に参加できるワオドリ以外の会場が欲しい
- 事前に盛り上がりポイントをアピールしたい(ヴィジョンを使って)

【企画】

- 個人賞がもっと欲しい。また、お客さんから渡されたり、会場ごとなど
- 個人賞メダルでなく、シールを貼るのもよいのではないかな
- 会場でスタンプラリーを実施してはどうか
- グッズ販売 チームのTシャツなどがあれば盛り上がるのでは
- お土産のバリエーションが増えるとよい(日持ちするもの、飴とかチョコとか)
- VRで踊り子体験(チームに入りたい！という気持ちに)

【交流】

- 他チームとの交流を増やしたい(給水を前チームしてもらったり、他チームに紹介してもらうなど)
- チーム同士のつながりの機会を本祭中につくりたい
- チーム間交流の促進。知り合いが増えると仲間意識が持てる。
- 各チームの新歓の工夫。人口を減らさないためにチーム同士の繋がりを大切にしたい。

【その他】

- お客さんの声が欲しい(アンケートをとるなど)
- お客さんとの一体感を感じたい

忌憚のないたくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。

【テーマ②】自分たちが盛り上げる魅力的な祭りをするために

【内容】

市民参加の工夫（ワオドリ・ステージ披露・演舞参加）や、実行委員側も盛り上げに参加・楽しめるイベントなど、観客が楽しめるようにするため、参加者がどう「盛り上げる」のか、祭りの魅力づくりについて議論しました。

グループごとに行った議論について、主な内容の一部を紹介します。

【年間の取り組み】

- 小・中学校やその他施設で積極的に演舞をすることで、未来のYOSAKOIを盛り上げることに繋がる。
- 修学旅行生に演舞を披露して、よさこいを知ってもらう
- 地域のお祭りで市と協力して、市との関わりや子供とのつながりをもつ
- チームでお祭りを開催して（縁日などを利用して）よさこいに興味を持ってもらう

【ワオドリについて】

- 様々なチームが入り混じって踊るような工夫を
- 西8の演舞前にワオドリに参加することで、士気を上げられる。
- チームの演舞も簡単にして、取り入れることでより盛り上がりやすいのではないか。
- アップテンポな総踊り曲を踊ったらお客さんが入ってきやすい。
- ワオドリ会場が輪の形だと人数が少ないチームのは踊りにくいし、回っている中に入っていくのが難しい
- お客さんが入りにくい、恥ずかしい。衣装の貸し出しの他、体験メイクなどで踊りになりきるような企画を
- 楽しく参加してくれたお客さんにプレゼントする個人賞があったらよいのでは
- ワオドリの魅力そのものがチームに伝わってない。経験者から話をする（聞く）機会があれば良い
- 踊る際に、ご当地色・チームの色をもっと出せればよい。
- 踊りが難しい、浸透していないことが課題。簡単な振付にしたり、動画サイトにレクチャー動画を公開する
- 総踊りを踊る回数を増やして、みんなが踊れるものにした
- 少人数のチームが踊りにくい。（人数の少なさから、入ることを躊躇してしまう。）少人数チームが何チームか合同で踊りやすいようなシステムを構築すべき。出場チームにだけでなく、その年出場しないチームにも積極的に声掛けしたら良いのではないか。
- 口上台が真ん中にあるほうがよい。
- スケジュールの空きがなくてワオドリへ行けないチームもある。他の会場と同じように抽選で決定してはどうか。
- ファイナルが終わった後に大通り公園全体で全チーム、お客さん参加で大乱舞をしたい

【お客さんと踊り子の交流・距離を縮めたい】

- チームごとのバックグラウンドを知ってもらう機会を作れば、さらにお祭りにも深みが増すのではないかと。例えばパレードを一本減らして十分なチーム紹介をする時間をつくるなど。
- アンケートを設置するなどして、お客さんの生の声を聞き、お客さんの視線を獲得したい。
- 個人賞など、お客さんも審査できる制度があったらいい。（スマイル賞、踊り子に直接シールを貼れるなど）
- 演舞前に時間をとったり、パンフなどにチーム情報をのせたりするときに、チームならではの掛け声について説明して、お客さんに一緒に掛け声をしてもらいたい
- 観客席の中にマイクをおいてお客さんの盛り上がりを共有したい
- 会場のどこかにお客さんと踊り子さんが感想や意見を交流できる掲示板がほしい
- 踊り子さんが使っている小道具や旗を実際に使うことができるブースを作る

【企画・その他】

- フォトスポットの設置
- パレードで後ろのほうで踊っている人の映像を映すモニターがあるといい
- 演舞する前に円陣をする時間をとってほしい。円陣もチームの魅力の1つだから
- 公式アプリを作って、チームのPR 動画のせたり、演舞スケジュールの通知が来る設定があるといい
- いろんな会場を回ってもらえるようにスタンプラリーをしたい
- グッズ（ペンライト・タオル・うちわ）を作って、その中に歌詞や前口上を書いたりしてみんなで振りしたい
- 携帯投票は分かりづらいので、掲示板にシールを張ったりして投票する

忌憚のないたくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。

【テーマ③】 祭りの改善点

【内容】

参加者の立場から、審査や運営についてなど、祭りそのものの課題・改善点について議論しました。

グループごとに行った議論について、主な内容の一部を紹介します。

【審査】

- パレードで審査を行わなくてもいいのではないかと、一次審査をステージに(もしくは両方に)
- 5回のパレードでの演舞は醍醐味の一つ
- 審査員の前だけ頑張るチームもいるので、何丁目に審査員がいるかわからなくすればおもしろいのでは
- パレードのボランティアの方にルールを徹底させて公平な状態で審査を行ってほしい
- 審査員の年齢に偏りがあるのでいろいろな人に審査してもらいたい
- 踊り子だけでなく他の人にもスポットを当てたい(MC賞・大旗賞・歌い手賞など)
- 他のチームの点数、コメント知りたい。全体の平均点も含めて。
- パレードだけでなく、ステージでも審査をやってほしい。
- 審査員コメントに改善点を書いてほしい。
- 各会場に賞を設ける
- 大人数を絞ってU40にするのはどうか(制限をかける)
- U40のあり方を見直す(U30、20、10など)

【地方車】

- 地方車のレンタル代が高い
- 同じレンタル車でも音響の質にばらつきがある。地方車によって変わる音質と音量を変えたい。
- 地方車を持っているチームの地方車を使っていないときに他のチームにレンタルできるようにしてほしい
- 音は道路などにスピーカーを設置して出すようにし、地方車は地方車賞のために使うのはどうか
- チームの人数によって音量の制限を変えられることがあるので、上限の音量をきちんと測定してほしい
- 担当の人が音を上げるように地方車に指示を出すようにする。
- 前方の地方車からの音で後方の地方車の音が聞こえにくい。踊り子が音が聞こえにくいいためパフォーマンスの低下している。地方車ではなく固定音響にしてはどうか。
- パレードの魅力は地方車。地方車は継続すべき。

【敷席】

- 敷席に人が集まれば祭りが盛り上がる。セット割引をする、チームに招待券を配るなどしてほしい
- チケット売り場を敷席入り口にしてほしい(現状では遠いからすぐに見られない)
- 敷席の値段をもっと手軽に

【その他】

- もっと学生など若い力を借りられるように学祭などにも出向くようにしてほしい
- ボランティア活動から派生させて活動場所を広げていきたい
- いろいろなお祭りに出向くようにしてPRをする
- 支部ごとに集まって合同説明会のようなものを開くとたくさん人がくるのではないかと
- 会場とチームのコミュニケーションをもっと必要。チームも会場に不満や意見があるが、会場がどんな想いで運営しているのかなどを知る機会がない。
- パレード5回披露はきついがチームによっては意義もあるなど、他種多様な意見
- 個人賞はメダルじゃなくてシールでもよいのでは(もらうこと自体うれしいから)
- 総踊りをもっとポップにするなど、時代に合ったものにする
- YOSAKOI関係者とそうじゃない人がもつとつながれる企画を考えてみるべき
- 参加費用を少人数のチームはちょっと優遇してほしい。人数×参加費用があっているのではないかと。

忌憚のないたくさんのご意見ありがとうございました。今後、フォーラム以外の場所でも議論や情報交換をしていければと思います。